

ミザルー

MISIRLOU

(ギリシャ)

この踊りは、クレタ島のシルトス（シルトス・クリティコスまたはシルトス・ハ＝オティコス）がアメリカにもたらされた時、ミザルーの曲に合うように作りかえられたものである。元の踊りよりもずっとテンポが遅く、しかも奇妙なことに、ステップが1拍ずれている。なお、ミザルーとは娘の名であるが、原語では、“ミシルー”と読む。

◆音 楽 4/4 拍子。前奏 8 呼間。1 回の踊り 16 呼間。全曲で 19 回踊れる。

◆隊 形 ブロックン・サークル（オープン・サークル）。パートナー不要。右端にリーダーが立ち、全員手先が肩より少し低い高さに小指で連手する。

◆ステップ サイド・ステップ、トー・ポイント、ピボット、ウォーキング・ステップ（ウォーク）。

◆踊り方

I. サイド・ステップ、トー・ポイント

円内向きで、右足を右横に小幅にステップ [1, 2]、左足を右足の前にトー・ポイント [3, 4]、左足を右足の後ろにステップ [5]、右足を右横にステップ [6]、左足を右足の前に交差してステップ [7] 左足のピボットで左（逆 LOD）へ向く [8]。……………8 呼間

II. 前進・後退

右足から 3 歩で逆 LOD に進み [1~3] 右足でライズして左足は地面から浮かす（左足先が右足のくるぶしの高さ） [4]。左足から 3 歩後退 [5~7]、左足でライズして右足を地面から浮かせ、90° 右にまわって円内を向く [8]。……………8 呼間

以上をくりかえす。

◆留意点

- 1) ソースは、最も信頼できると思われるペトライド (Petrides) 夫妻 “Folk Dances of the Greeks” によった。従来日本で踊られている 2 種類の踊り方の混合形である。
- 2) ライズ以外は、身体を上下になるべく動かさない。
- 3) ダンサーが全部女性であった時代に男性が交代しながらリーダーになった遺風で、リーダー自身は、他のシルトーと同様、大いに活躍する。リーダーの動作は、例えばリーブやターンを行う以外に、股、足裏、踵の平手打ち、軽業的な敏捷動作、必要ならばリードする手も右手にかえる。
- 4) II の第 2 歩目はクローズ気味であるから、前進をツーステップで行っても大した違いではない。なお解説ではわかりやすく「左（逆 LOD）」としたが、それに決まっているわけではなく、踊りに慣れてきたらリーダーがシルトーの本領を発揮して自由に引きまわし、円周上の前進・後退なども当然行なわれる。